

第2学年 図画工作科 学習指導案

題材名：「あそぼう！キャップランド」

- 1 日 時 平成28年11月25日（金）
- 2 学 年 第2学年1組 男子6名 女子8名 計14名
- 3 場 所 第2学年1組 教室

学校教育目標

「自ら伸びる」児童の育成

【みる・かく・つくる】

ペットボトルキャップの積み方、並べ方を試したり、見付けたり、考えたりして、思い付く力を培う。

イメージしたことをもとに活動することができる。

de

【人づくり】

友達と活動をしたり、作品をつなげたりしながら、自分や友達の活動や表現のよさを味わう。

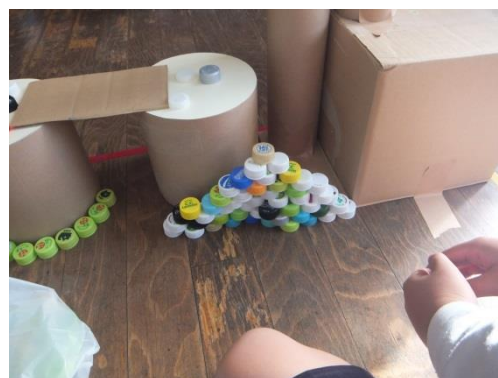
友達と関わり合うことで、新たな発想が生まれることに気付く。

題材について

本題材は、小学校学習指導要領の第1学年及び第2学年A表現（1）特に「ウ 並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。」「イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。」に重点を置いている。

本題材は、児童にとって身近であり、児童が手に取って扱いやすいペットボトルを使った造形遊びである。ペットボトルキャップの積み方、並べ方を試したり、見付けたり、考えたりして、思い付く力を培うことができる学習である。

自分一人で活動するだけでなく、他の児童と協力して活動したり、それぞれの成果物を持ち寄り並べたりすることでよりイメージを広げて造形遊びを楽しむことができると考える。



児童の実態について

本学級では、これまで色水やせんたくばさみ等、身近な材料を用いた造形遊びを行ってきた。

本学級の児童は、活動の1時目では、個々で材料と向き合い、さまざまに試してみる様子が多く見られ、児童同士の関わりはあまり見られなかったが、2時目では、自然と男女別のグループを作って活動する姿がよく見られた。活動の様子から、児童は、納得するまで材料としっかり向き合うと、次は友達と活動してみたいという思いが自然と生まれてきているようであった。

また、図画工作に対する意識を客観的に把握するため、次のようなアンケートを9月上旬に行った。結果は次の通りである。

Aとても当てはまる Bまあまあ当てはまる Cあまり当てはまらない D全く当てはまらない(%)

質問 (回答者数 14名)	A	B	C	D
1 図画工作はわくわくする学習だ。	85	14	0	0
2 造形遊びが好き。	100	0	0	0
3 工作が好き。	100	0	0	0
4 自分らしい作品を作ることができる。	92	7	0	0
5 どんな作品を作りたいかアイデアが浮かぶ。	57	35	7	0
6 友達と活動するのが好き。	92	7	0	0

これらのことから、アイデアが浮かぶまでに時間がかかる児童がいるものの、ほとんどの児童が自分らしい発想で取り組むことができていることが分かった。

また、本学級の児童の姿として、他者と考えが違うことに不安を感じ、みんなと同じ意見に合わせようとする児童や、自分の意見を通したいがために他者の意見を受け入れることが難しい児童が多い。そこで、本題材でペットボトルキャップを積んだり、並べたりする造形活動をしていく中で、他者との感じ方の違いにより活動がより広がったり、他者の意見を受け入れることでより楽しく活動することができることに気付かせたい。

指導（「みる」・「かく」・「つくる」）のポイント

指導に当たっては、導入で大量のペットボトルキャップと出合わせ、今後の活動の期待感をもたせて意欲的に活動できるようにしたい。活動の場をできるだけ広くとれるように、机と椅子は教室の端に寄せてから活動に入る。活動の前半では、ペットボトルのキャップのみを渡し、それぞれで思い付いた活動をさせ、後半で、ペットボトルのキャップが置けるような台を複数提示し、さらに活動を広げていくことができるようにしたい。

また、児童から自分の活動結果を友達に見せることや、友達の活動を見ることを積極的に認めるようにする。友達の活動と自分の活動を見合うことで、新たなイメージが生まれ、多様な活動ができるようになると考える。これらの繰り返しで活動を発展させることを楽しませたい。また、全員に知ってもらいたい児童の活動が見られた場合には、教師が自然な形で活動を止めて、取り上げる。

友達との活動の中で、思いがすれ違ったり、うまくいかない場面が生じることも考えられるが、相手と気持ちを伝え合ったり、失敗しても励ましたりする姿を認め、協力することのよさや、苦勞して作り上げた後の達成感を感じさせたい。

安全面では、活動の際に児童がしゃがんでいたり、手を床に近づけて作業をしていたりすることが考えられるため、移動は慎重にすることを指導する。



題材の目標及び評価規準

【題材の目標】

- ペットボトルキャップの積み方、並べ方を試したり、見付けたり、考えたりして、思い付くことができる。

【評価規準】

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
・ペットボトルキャップを積んだり並べたりすることを楽しんでいる。	・ペットボトルキャップを使って、やってみたいことを思い付いている。	・ペットボトルキャップの積み方や並べ方を工夫している。

指導と評価の計画

(全2時間)

次	学習内容	評価の観点			評価規準 (評価方法)
		関	発	創	
1 (2)	・ペットボトルキャップを使って思い付いた活動をする。 1 / 2 (本時) ・活動結果を見て、さらに思い付いた活動をする。	○	◎	◎	・ペットボトルキャップを積んだり並べたりすることを楽しんでいる。 (行動観察) ・ペットボトルキャップを使って、やってみたいことやつくりたいものを思い付くことができている。 (行動観察) ・活動結果から、やってみたいことを思い付き、活動することができている。 (行動観察)

本時の学習



(1) 本時の目標

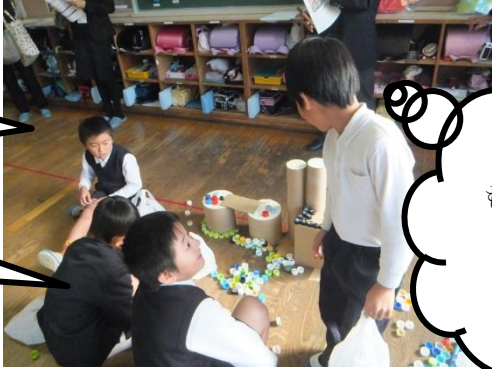
ペットボトルキャップの形や色からイメージを広げ、思い付いた活動をすることができる。また、イメージしたことをもとに活動をすることができる。

(2) 準備物

- (教師) ペットボトルキャップ、様々な形の台、デジタルカメラ、テレビ
- (児童) なし

(3) 本時の学習展開

学習活動	◇指導上の留意点 (◆Cと判断される児童に対する手だて)	評価規準 (評価方法)
<p>1 活動の見通しをもつ。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p>	<p>◇活動を紹介し、児童の関心や学習意欲を高める。</p>	
<p>形や色に目をつけて、キャップを積んだり並べたりしてあそぼう！</p>		
<p>キャップの形は、上から見ると丸くて、横から見るとギザギザ模様の四角形で、裏から見るとくぼんでいます。</p>		<p>いろいろな色があるから、楽しそうだな。</p>
<p>3 材料を知る。</p> <p>4 自分のイメージしたものをつくる。</p> <p>5 中途鑑賞を行い、さらに思い付いた活動をする。</p>	<p>◇本時の材料を紹介する。</p> <p>◇ペットボトルキャップを使って、自分のイメージした活動ができるようにする。</p>  <p>黒いキャップだけ集めているんだよ！</p> <p>◇他の児童の活動を見合って、さらに思い付いた活動をするようにする。</p> <p>◆他の児童がどんな活動をしているか、一緒に遊んでみたい児童はいるか等、見て回るよう個別に声かけをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルキャップを使ってみたい活動を思い付いている。(行動観察) ・ペットボトルキャップを積んだり並べたりすることを楽しんでいる。(行動観察)

<p>6 本時のまとめをする。</p> <p>工場の入口に、もっと高くキャップを積んでみたら面白くなりそう！</p> <p>大発見だ！次の時間にやってみようね。</p>	<p>◇本時の活動で面白かったことや発見したことなど、思いをまとめるようにする。</p>  <p>もっとみんなと遊びたいな。</p>	
<p>○もっとキャップを積んだり並べたりして遊びたい。</p>		
<p>7 片付けをする。</p>	<p>◇使っているキャップはくずさないようにし、使わなかったキャップをすべて箱に戻す。</p>	
<p>8 本時を振り返り、次時の活動への意欲を高める。</p>	<p>◇活動中の写真を見ながら、本時の造形遊びを振り返り、これまでの造形遊びとの違いや、他に使ってみたい材料などを話し合い、次時の活動への意欲を高める。</p>	

【◎成果と●課題】

- ◎題材との出会わせ方を工夫して、知性と感性を働かせて対象を捉えさせることができていた。
- ◎中途鑑賞と、振り返りで友達の活動との比較・気づきの場をもたせることができていた。
- ◎教室を広く使い、フープの中にキャップを出すことで、子供が思考する授業になっていた。
- 低学年時は、問い返しを行うことで、体験と表現をつなげる必要がある。
- つくり続ける子供の姿を見取る。
- 前時の振り返りとして授業の導入に写真を見せるなど、ICTの更なる有効活用をする。